



- 主な内容
- 2……平成23年名張市消防白書、まちの話
 - 3……ひまわり、リバーナホール催物、かがやき催物
 - 4……二次救急実施病院、関西医科大学市民公開講座

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



▲後輩への指導に力が入る



▲前日勤務隊員から引継ぎを受ける
谷本隊員(中央)と重森隊員(右)



▲「救急入電中」の放送。
出動隊は直ちに出勤準備



▲救急車内の機材などを抜き取りなく点検



▲気管挿管の訓練を行う城越隊員(右)と北川隊員(左)

地域医療を支える
vol.3

救急救命士が行く!

「救える命」を救いたい

病気やケガで命の危機にある人のもとへ駆けつけ、病院に搬送する間に可能な限り処置を行い、命を守る救急救命士。名張消防署で現在25人の救急救命士が活動しています。
今号では、昨年12月28日の救急救命士の1日をご紹介します。

名張消防署 ☎63・0999

救急救命士の朝

消防署の職員は24時間勤務。午前8時15分、前日に勤務した職員から引継ぎを受けます。すべての職員が入替わるので、円滑に業務を進めるための情報共有は欠かせません。

次に救急車の点検です。「前日に勤務した隊員が朝に車両の点検をしているのですが、当日勤務する隊員で、もう一度点検します。そして、車内の精密機械が正常に作動するか、不足している消耗品がないかを確認します」と重森隊員。人命にかかわるため、車内の資機材の点検に抜かりはありません。

救急救命士も一次・二次救急のすみ分け

午前9時59分「救急入電中」と署内に放送が流れました。この放送が入ると、緊張感の中、出動の準備をします。出動しな



午後1時30分、訓練が始まり

後輩への指導 自らは常に勉強の日々

隊員も、救急車のエンジンをかけたり、現場の地図を用意したり、少しでも早く出発できるように準備をします。この日、勤務となっている4人のうち2人の救急救命士と救急隊員1人が救急車に乗り込み出動しました。
通報から5分後に現場に到着。交通事故で気分不良を訴えた患者の体内酸素量を測り、打撲などの外傷が無いかを確認。異常が無かったため、患者のかかりつけ医へ搬送しました。

「市民の皆さんと同じようにわたしたちも一次救急と二次救急のすみ分けを行っています」と谷本隊員。一方で「通報時に、意識が無かったり、大きな事故だったりと緊急性の高い場合は、救急救命士の人数を増やし、4人体制で出動することもあります」と話します。

救急救命士とは

救急隊員が、国や県などが指定する養成所で7か月間、知識や技能を習得し、国家試験に合格すれば救急救命士の資格を得ます。合格後、病院で1か月の研修を経ることで、心肺停止状態の患者に対し、医師の指示の下、次の医療行為などが許されます。

- ▼点滴(静脈路確保のための輸液) ▼薬剤の投与
 - ▼器具を使った気道確保(気管挿管)
- ※気管挿管は新たに、講習や病院での実習が義務付けられています。名張消防署では5人の救急救命士が実施可能

続けて、救急救命士4人による訓練。患者の状況などを想定し、現場と同じ緊張感を持って訓練を行います。「現場でより質の高い救急救命活動を実施するために訓練は欠かせません」と北川隊員。救急救命士は訓練以外にも、救急救命士が集まり、実際の症例を見直ししたり、定期的に病院実習や講習会に参加したりと、救急救命技術の維持向上を図っています。

2ページ目へ